OCTOBER. 10
2026
No.625

おきぎん 調査月報



くがにくとぅば［黄金言葉］ vol.264

闘牛にしかない情熱と感動

一般社団法人 沖縄県闘牛組合連合会
事務局長（闘牛実況アナウンサー） 伊波 大志

地域リレーションシップ情報 261

GX×観光・防災をテーマに自治体GXの実践モデルを考える ～令和８年度 沖縄奄美地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウムを開催～

NEWS RELEASE

沖縄闘牛の経済効果 ―闘牛愛が紡ぐ伝統文化、次代への継承に向けた課題―

おきなわフィナンシャルグループ
PEOPLE'S BANK 沖縄銀行
株式会社おきぎん経済研究所

CONTENTS

おきぎん調査月報
2026 10 No.625

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.264
闘牛にしかない情熱と感動
一般社団法人 沖縄県闘牛組合連合会　事務局長(闘牛実況アナウンサー)　伊波 大志

5 地域リレーションシップ情報 261
GX×観光・防災をテーマに自治体GXの実践モデルを考える
～令和8年度 沖縄奄美地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウムを開催～

6 **けいざい風水**

8 NEWS RELEASE
沖縄闘牛の経済効果 ―闘牛愛が紡ぐ伝統文化、次代への継承に向けた課題―

20 **おきぎんカトレアクラブ通信**

22 **県内景況・確報**
2026年７月期の県内景況

30 **沖縄マーケティング情報**
数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

44 **掲載内容見直しのお知らせ**
「最近の国内景気動向」および「沖縄マーケティング情報」一部掲載終了について



沖縄闘牛

闘牛にしかない情熱と感動

(一社)沖縄県闘牛組合連合会

事務局長（闘牛実況アナウンサー）
伊波 大志



沖縄で長年、世代を超えて愛されてきた闘牛。その伝統を守り、未来へつなぐために振興や継承に取り組むのが一般社団法人沖縄県闘牛組合連合会です。今回は、同連合会の事務局長であり、沖縄唯一の闘牛実況アナウンサーとして活躍する 伊波 大志 氏に、沖縄闘牛の魅力や地域振興における可能性などについてお話を伺いました。

第118回 春の全島闘牛大会

これまで数多くの試合を実況してきましたが、中でも特に印象に残っているのが、2023年５月に開催された第118回春の全島闘牛大会です。

当時、沖縄には防衛を重ね、県内ではほとんど敵がいないほどの強さを誇っていた「闘勢琥珀（とうせいこはく）」がいました。その琥珀に挑んだのが、鹿児島県徳之島で圧倒的な強さを誇っていた「牛若赤丸ぎのわん號」です。沖縄と徳之島は全国でも特に闘牛が盛んな地域で、両地域のチャンピオン同士が戦えば「日本一決定戦」と言われるほどです。沖縄最強と徳之島最強、本当にどちらが強いのか。その期待の高さから試合は大きな注目を集め、うるま市石川多目的ドームには早朝から多くの観客が列をつくりました。会場を包む大歓声とどよめきの中、激闘の末に日本一最強牛の栄冠は「闘勢琥珀」の頭上に輝き、観客の記憶に刻まれる素晴らしい一戦となりました。



◀右「闘勢琥珀」
左「牛若赤丸ぎのわん號」

闘牛の集客では、こうした「対戦カード」が非常に重要です。強いチャンピオンに、それに匹敵する挑戦者がいて、どちらが勝つか分からないという期待感が生まれます。2023年の大会は、そうした条件がそろった特別な大会でした。

闘牛に関わるようになったきっかけ

私が闘牛に関わるようになった一番のきっかけは、父親の存在です。父が闘牛を飼っていたこともあり、子どもの頃から闘牛大会によく足を運んでいました。日曜日には父の草刈りについて行き、県内各地の闘牛場にも連れて行ってもらいました。うるま市石川で育った私にとって、闘牛は幼い頃から身近にある文化でした。

その後、20歳の頃からラジオカーレポーターとして活動するようになりました。もともとラジオの仕事がしたかったのですが、仕事を続ける中で「もっと地域のことを発信したい」と思うようになり、自分にとって身近だった闘牛に改めて目を向けました。そこから闘牛を扱う番組の企画を挙げ、採用してもらいました。闘牛について発信を続ける中で、闘牛組合連合会から正式に大会の実況を依頼されたことが、闘牛実況アナウンサーとしてのスタートです。

現在は実況に加えて、沖縄県闘牛組合連合会の事務局長も務めています。前任の事務局長が引退することになり、闘牛を知っていて、広報にも携わってきた私に声がかかったことがきっかけです。今では実況、事務局、広報と、さまざまな立場から沖縄闘牛に関わっています。

闘牛の魅力を「分かりやすく」見せる

闘牛の実況で私が大切にしているのは、単に会場を盛り上げるだけではなく、観客に試合を「分かりやすく」見せることです。

闘牛には、長年見ている人には分かっても、初めて見る人には分かりづらい駆け引きや技が数多くあります。一見すると牛同士が動かず、試合が止まっているように見える場面でも、実際には角の使い方によって相手の動きを封じたり、攻撃を組み立てたりしています。



例えば「カケ」という技があります。単に角を軽く掛け合っている状態ではなく、相手の角を受けながら、自分の角で相手の首を曲げ、動きを封じる技です。見た目には地味でも、試合の流れを左右する重要な技です。

そうした場面で、「今はこちらの牛が優勢です」「カケて相手の首を曲げ、前に出られないようにしています」と説明すると、初めて見る方でも、牛同士がどのような攻防をしているのか、試合の面白さが分かるようになります。

勝負どころでは実況として会場の熱気を高めながら、同時に解説者として牛同士が何をしているのかを分かりやすく伝える。闘牛をより見やすく、より面白くすることが、私の役割だと思っています。

闘牛大会の客層の変化

私が子どもの頃と比べると、闘牛大会の客層は大きく変わりました。特に増えているのが、女性やファミリー層です。30年ほど前は会場の９割近くが男性で、女性の姿はほとんど見られませんでした。しかし最近の全島大会では、来場者約3,000人のうち約900人を女性が占める大会もあります。こうした変化には、闘牛場の環境整備も影響しています。石川多目的ドームが整備されたことで雨天でも観戦できるようになり、トイレの洋式化など衛生面も改善されました。ファンを増やすためには試合そのものだけではなく、「行きやすい」「居心地がいい」と感じてもらえる環境づくりも重要です。



また、子どもたちに闘牛を知ってもらうために始めたのが「闘牛戦士ワイドー」です。子どもたちに興味を持ってもらうならヒーローだと考え、自費でコスチュームを制作しました。最初は自分で保育園に電話をかけ、ショーをさせてもらうところからのスタートでした。その後、地域のお祭りなどに呼ばれるようになり、活動はテレビドラマの制作にも発展しました。そのためにワイドー aiプロ株式会社を立ち上げ、ドラマはシーズン２まで制作しました。現在もヒーローショーを続けており、ワイドーをきっかけに闘牛に興味を持ち、家族で闘牛場を訪れる子どもたちもいます。



闘牛の担い手の減少

一方で、沖縄闘牛には大きな課題もあります。それが牛主をはじめとする担い手の減少です。

現在、県内では年間25回ほど闘牛大会が開催されています。これだけ聞くと多いように感じますが、私が子どもの頃には年間40～50大会ほ

どあり、毎週日曜日になると県内のどこかで闘牛大会が開催されていました。大会数が減っている大きな理由は、闘牛の人気が低下したからではありません。昔からのコアなファンに加え、新しいファンも増えています。問題は、牛を所有し、飼育する人が少なくなっていることです。牛の価格も上昇していますし、飼育には餌代や牛舎、日々の世話など大きな負担がかかります。牛の頭数が減れば、当然、大会を組むことも難しくなります。

今後は、闘牛を見たいというファンだけではなく、「自分も牛を持ちたい」「闘牛に関わりたい」という次の世代を増やす必要があります。一つの可能性として、競馬の馬主のようなオーナー制度があっても面白いと思っています。企業がオーナーとなる方法も考えられます。企業名を冠した牛が試合に出れば、企業PRにもなります。地域企業の支援と文化継承を結びつけることができれば、新しい担い手づくりにつながる可能性があります。

地域振興としての可能性

闘牛には、観光コンテンツとしても大きな可能性があると思っています。現在開催されている「観光闘牛」では、県外から訪れた方が多く参加しています。約１時間の中で、民謡ショー、闘牛のレクチャー、エキシビション形式の試合、写真撮影などを組み合わせています。午前中の１時間で終わるため、その後はうるま市内で昼食を取ったり、勝連城跡や海中道路へ足を延ばしたりすることもできます。石川ＩＣが近いため、北部や那覇方面への移動もしやすく、観光客にとって旅程に組み込みやすいのも特徴です。今後は観光闘牛だけで完結させず、地域との連携を強めたいと思っています。例えば、うるま市内の飲食店を紹介するグルメマップを作ったり、特産品を販売したり、子どもが楽しめる仕掛けを増やしたりすることで、闘牛を入口として地域を周遊してもらうことができます。一方で、観客を増やす上では駐車場も大きな課題です。石川多目的ドームは多くの観客を収容できますが、周辺の駐車場は限られています。「見に行きたいけれど、車を止められなくて諦めた」という声もあります。行政や地域と連携し、臨時駐車場やシャトルバスなど来場しやすい環境を整えることも重要だと思います。

100年以上続く文化を次の世代へ

闘牛は、もともと農村の娯楽として始まり、それが大衆娯楽となり、100年以上にわたり沖縄で受け継がれてきました。文化がこれだけ長く続いていることには、必ず意味があると思っています。どれだけ「伝統だから残さなければならない」と言っても、人の心を動かさないものはいつかなくなります。しかし、沖縄闘牛は今も興行として成り立ち、昔からのファンに加えて女性や子どもなど新しいファンも増えています。そこには、闘牛にしかない情熱と感動があるからだと思います。逃げたら負けというシンプルなルールの中で、牛たちは持っている闘争本能をぶつけ合います。最後まで諦めない牛の姿があり、その牛を大切に育ててきた牛主の想いがあり、試合では闘牛士たちの熱量があります。そのすべてが重なって、一試合ごとに違うドラマが生まれます。私はこれまで約4,000試合を実況してきましたが、同じ試合は一つとしてありません。時代とともに新たなスター牛が現れ、チャンピオンが入れ替わり、また新しい時代が始まります。それを追いかけていくことも闘牛の魅力です。

今後の課題は、この人気と熱量を次の牛主、次の担い手につなげていくことです。そして、県民にとって当たり前の文化となり、沖縄を代表するコンテンツの一つとして次の世代へ受け継いでいきたいと思っています。

まずは一度、闘牛場に足を運んでほしいです。100年以上にわたって沖縄の人々を魅了してきた理由を、実際の会場で感じてもらえればと思います。




沖縄観光闘牛
OKINAWA BULL SUMO TOUR
観光闘牛とは、
初めての方でも安心して
沖縄の闘牛文化にふれられる
体験プログラムです。
※闘牛大会ではございません。
進行役：闘牛実況アナウンサー 伊波 大志
沖縄観光闘牛
―市指定無形民俗文化財―
会場も広く 予約なしでの当日参加も大歓迎！
OKINAWA BULL SUMO TOUR
プログラム
10:00
オープニングアクト
地元アーティストによる民謡ライブを予定しています。
10:15
闘牛レクチャー
300インチの大型ビジョンを使ってMC「伊波大志」より闘牛のことについてわかりやすく解説します。
10:25～11:00（終了）
闘牛エキシビジョンマッチ｜2試合
あなたのジャッジが勝敗を左右する!観客参加型エキシビジョンマッチ!
※会場限定販売の判定タオル(1日1枚)で勝敗判定に参加できます。
11:00～
闘牛と記念撮影タイム
普段ではなかなか触れない闘牛との撮影会。希望者のみの参加になります。カメラはお客様にてご持参ください。
会場限定
観光闘牛オリジナルグッズ
発売中!!
お楽しみ抽選会あり! 豪華商品が当たるかも!?
開催日／会場（うるま市石川多目的ドーム 闘牛場）
2026年 10/17(土) 11/14(土) 12/27(日)
2027年 1/23(土) 1/24(日) 2/20(土) 3/20(土)
日付 10/17・11/14・12/27・2/20・3/20
時間｜受 付 9:00～／開 場 9:30～
料金｜大 人（中学生以上）税込 2,000円
こども（小学生以上）税込 1,000円
日付 1/23・1/24は、通常と異なるプログラム内容と料金になります
時間｜受 付 13:00（開始14:00～15:50）
料金｜大 人（中学生以上）税込 3,000円
こども（小学生以上）税込 2,000円
・エキシビジョンマッチ2試合
・本試合（決着試合）1試合
途中入退場可能｜小学生未満無料｜※試合状況により、終了時間が前後します ※15名以上の団体、貸切バスでご来場の場合は事前にお問合せください
石川多目的ドーム（闘牛場）
石川IC
ユニガーデン リゾートオキナワ
ANAクラウンプラザ 沖縄うるまビルズ
Google Map
沖縄県自動車石川ICより車で約2分｜恩納村主要ホテルから車で約10分｜駐車場最大130台収容｜屋根付き全天候型施設なので雨天も安心｜AED設置 ※バスはスロープ(バリアフリー対応)
予約方法.1 右のQRコードから予約
予約方法.2 電話をかけて予約
TEL.098-973-2002
受付時間（月～金 9:30～18:30）
〈決済方法〉当日現地にてお支払いをお願いいたします。※現金払いのみ
お問合せ｜主催 ㈱レキオツーリスト 〒904-2215沖縄県うるま市みどり町4-2-10 TEL.098-973-2002／FAX.098-974-2233
レキオツーリスト

けいざい風水



多子世帯の大学等授業料無償化

支給まで教育ローン活用も

沖縄銀行ローンステーション 北谷店長
仲里　京子

春の入学シーズンが落ち着き、教育費や物価上昇による家計負担を実感しているご家庭も多いのではないでしょうか。沖縄県は、子どもの数が比較的多い地域特性もあることから、進学費用の確保が家計上の重要な課題となっています。こうした負担を軽減する国の修学支援制度の一環として「多子世帯への大学等の授業料等の無償化」があります。所得制限は設けられていない点が特徴ですが、扶養する子どもが３人以上いる世帯で、学業成績や学修意欲などの一定の要件を満たす必要があります。

例えば、第１子・第２子が大学生、第３子が高校生以下の場合、同時に扶養していれば大学生２人とも対象となります。一方で、就職などで扶養する子どもが３人未満になると対象外となります。入学後も、成績や出席状況が確認され、基準を満たさない場合は支援が打ち切りとなるため注意が必要です。支援額は学校の種類ごとに授業料の平均額を目安に上限（国が定める一定の額）が定められています。

具体的な申請方法は２通りあり、高校在学中に行う「予約採用」と大学等入学後に行う「在学採用」があります。なお、支給決定までには一定の期間を要するため、入学時など費用の支払いが先に発生する場合は、金融機関の教育ローンの活用を検討することも選択肢の一つです。国の制度の活用検討に加え、地域金融機関への相談などを通して安心して学べる環境づくりに向け、早めの制度確認と資金計画が重要です。

支援額（国が定める一定の額）

	国公立		私立	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学	28万円	54万円	26万円	70万円
短期大学	17万円	39万円	25万円	62万円
高等専門学校	8万円	23万円	13万円	70万円
専門学校	7万円	17万円	16万円	59万円

出典：文部科学省（2025年度からの多子世帯への授業料等無償化に係るFAQ資料）

（2026年６月28日掲載）



金利上昇の背景

ライフプラン見直すきっかけに

沖縄銀行 内間支店長
大城　良拓

日本銀行の時系列統計データによれば、2024年２月時点で0.001％だった預金金利は、26年６月には0.254％まで上昇しています。また、住宅ローンなどの融資金利も同様に上昇していますが、どうして金利は上がったのでしょうか。

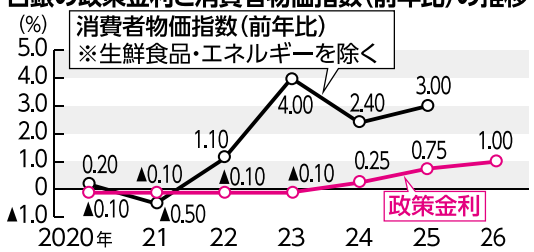
国内金融機関の預金金利や融資金利は、日本銀行が設定する政策金利の影響を受けます。日本銀行の大きな役割は「物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資すること」とされ、持続的・安定的な国民生活の発展につながるよう政策金利を通じて経済に働きかけています。

日本銀行は、1999年に景気低迷への対策としてゼロ金利政策を導入し、2016年にはさらにマイナス金利政策をとりました。預金金利や融資金利を低く誘導することで、企業の設備投資や個人の購買意欲を高め、経済活動を活発にしようとしたのです。

方針転換があったのは24年３月です。「物価安定の目標が持続的・安定的に実現することが見通せる」と判断し、政策金利の引き上げに踏み切りました。その後も段階的に引き上げられ、26年６月には1.0％に到達。方針転換は預金金利や融資金利の上昇のほか、海外からの資金流入による円安進行の抑制で物価上昇を抑える効果も期待されています。また、株価や債券価格にも影響を与えています。

近年の金利上昇で「金利のある世界」を実感している方も多いと思います。世の中の変化を感じながら、ライフプランを見直すきっかけとし、ご自身の生活の発展につなげていただければ幸いです。

日銀の政策金利と消費者物価指数（前年比）の推移



出典：総務省（消費者物価指数）公表資料および日銀公表データより
※政策金利は年末基準を記載。2026年については6月末金利

（2026年７月５日掲載）

※琉球新報に掲載



宮古島の観光ポテンシャル

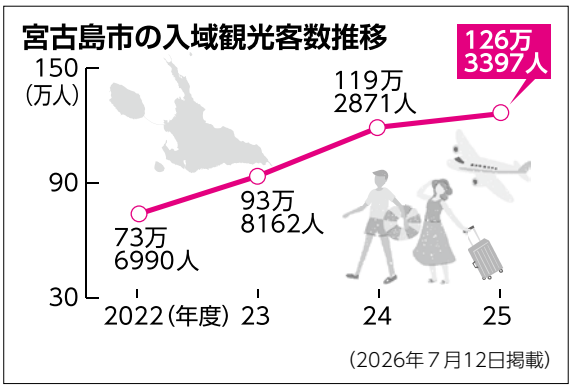
2空港の強み生かして

沖縄銀行 宮古支店長
豊里　哲充

宮古島市の入域観光客数は、市発表の統計で、2025年度は126万3397人となり、コロナが明けた22年度の73万6990人と比較して52万6407人増え、1.7倍の水準となっています。その要因の一つとして、宮古島圏域は宮古空港ならびに下地島空港の二つの空港を備えていることが挙げられます。宮古空港からは東京、大阪、名古屋の大都市圏への直行便が就航しており、下地島空港からは国内線のほか、韓国、台湾への国際線が就航しております。

また、入域観光客数ではなく、少し目線を変えて沖縄県全体として島しょ間の距離で見た場合、宮古島から沖縄本島は約300キロ、石垣島は約130キロの距離にあります。ちなみに、観光面でよく比較されるハワイ諸島間の距離を見ると、ホノルルのあるオアフ島から一番遠いハワイ島まで約340キロ、一番近いモロカイ島まで約40キロ、ラナイ島まで約120キロ、カウアイ島まで約160キロ、マウイ島まで約190キロとなっております。私たちはハワイをひとくくりで考えがちですが、インバウンド客の目線からも、沖縄県全体はひとくくりの観光地として認識されている可能性があります。

宮古島圏域での観光客数の増加はもちろん大事ですが、二つの空港がある強みを生かして、沖縄県全体の観光におけるさらなるポテンシャルを発揮できることを期待したいです。



(2026年7月12日掲載)



南風原町の地域資源活用

ブランド認定で販路拡大

沖縄銀行 南風原支店長
安谷屋　正人

南風原町は沖縄県内で唯一海のない町として知られていますが、伝統工芸品（琉球絣・南風原花織）や農産物（カボチャ・へちま・スターフルーツ）などの地域資源に恵まれています。こうした資源を生かし、町は商工会と連携して「商品展開力強化支援事業」を推進しています。市場ニーズを踏まえた商品のブラッシュアップや販路開拓を支援し、特産品の開発・販売を行う町内事業者の売上拡大を後押しする取り組みです。

その成果として広がりを見せているのが、地域ブランド認定制度「はえばる良品」です。専門家や地域の有識者を交えて選定された商品は、一定の基準と統一コンセプトのもと、品質とストーリー性を兼ね備えた「町の顔」として位置付けられています。

こうした認定により商品の信頼性が高まり、消費者からの評価向上にもつながっています。

さらに、物産フェアや商談会の開催などの出口戦略支援で、事業者が商品の背景やこだわりを発信する機会が増え、町内外での認知度向上と販路拡大を後押ししています。

また、本事業は異業種連携による新商品開発も促進しています。農産物と加工技術、工芸とデザインを組み合わせることで、新たな付加価値が生まれている点も特徴です。

地域資源を最大限に活用して稼ぐ力を高める南風原町の取り組みは、内陸の町での地域産業振興のモデルとして期待されています。



(2026年7月19日掲載)